

## 平成 22 年度 活動方針

直江津港では、地域経済を支える重要な産業基盤として着実に整備が進められている。沖防波堤や東ふ頭地区 4 号岸壁の整備が完了し、大型コンテナ船の入港が可能となり、コンテナ貨物取扱量の増加が期待できることから、現在、コンテナヤードの拡張整備が進められている。また、第 3 東防波堤の築堤や上越火力発電所、直江津 LNG 受入基地の建設が着々と進められ、エネルギー港湾としての発展が大いに期待されている。

一方、去年の総貨物取扱量は、世界的な経済不況に伴う受注の減少や小木直江津航路の輸送車両の減少等から、2,135,180t と前年比 13.3%減少し、コンテナ貨物取扱量についても、19,303TEU と前年比 10.5%減少している。また、国による港湾の「選択と集中」が図られていることから、港湾間の競争がこれまで以上に激しくなるなど、直江津港を取り巻く環境は、依然として厳しい状況にある。

このような状況を踏まえ、直江津港の物流拠点としての優位性など、そのポテンシャルを最大限に活かし、長野県等後背地域との連携を図りながら、地域一丸となって利用促進活動に取り組み、貨物取扱量の拡大や国内外航路の拡充などにつなげることが極めて重要である。

このため、当協会では、関係者がより一層連携・協力しながら、次の事項を重点目標に掲げ、力強い活動を展開する。

### 重点目標

- 1：直江津港港湾計画の促進  
エネルギー港湾としての整備促進など
- 2：直江津港の利用促進  
企業との結び付きを強めたポートセールスの実施  
信越連携による直江津港の利用促進  
国内フェリー航路に関する情報収集  
動物検疫対象品目の取扱いに向けたポートセールス
- 3：国際定期コンテナ航路の拡充とコンテナ荷役施設の充実
- 4：国の港湾施策に関する情報収集及び要望活動
- 5：小木直江津航路の活性化及び安定運航
- 6：直江津港の交流拠点としてのにぎわい創出